

児童の家庭科学習及び家庭生活に関する調査 1

家庭科学習の指導に当たっては、家庭生活に関する基礎的な知識・技能を習得させるとともに、生活に生かしたり役立てたりする喜びを味わわせることが大切である。

全国小学校家庭科教育研究会では、家庭科学習に関する知識や家庭生活の実態を把握し、これからの指導の手がかりを得ることを目的として、毎年全国規模で調査を行っており、山口県もこの調査に参加している。この度、県内の児童の実態を把握するため、県内各地区の大規模校、中規模校、小規模校から抽出して、全国調査と同一内容でアンケート調査を実施した。

- 調査時期 平成19年12月
- 調査学年 5学年、6学年
- 調査内容 児童の実態や意識調査
- 調査方法 5学年児童 男子100名 女子100名 計200名
6学年児童 男子100名 女子100名 計200名

<実態調査の結果と今後の取組み>

「家庭科学習に関する調査」、「家庭生活に関する調査」ともに全体的には全国調査の結果とほぼ同じ傾向にあったが、更に詳しくみていくと、山口県では次のような傾向にあることがわかった。

- ① 5・6学年とも、家庭科学習が「とても好き」、「わりと好き」の合計が全国に比べるとやや低い。「楽しさ」を感じる児童の割合は全国調査に比べてやや高いが、6学年になって減少する割合も高くなっている。
- ② 調理実習や布を使った製作を好む児童は全国調査と同じで多いが、「学習内容がよく分からない」、「にがて」と感じている割合が6学年で特に高い。さらに、「針を使うのがこわい」などの理由で家庭科学習が好きでないと答えた割合が、6学年では特に高い。
- ③ 「家庭科は将来役に立つと思う」と答えた割合に比べ、実生活で「役に立つ」と答えた割合は低い。
- ④ 「手伝いではなく、分担した家庭の仕事をしていますか」では、全国調査に比べて高いが、6学年で減少する割合も高い。

これらの結果から、学年間による割合の数値差が大きいことが分かる。また、6学年になると、家庭科への意欲や関心が低下して、家庭生活へのかかわりが薄くなる傾向がみられる。これらの課題を改善するためには、次のような手だてが必要であると考えている。

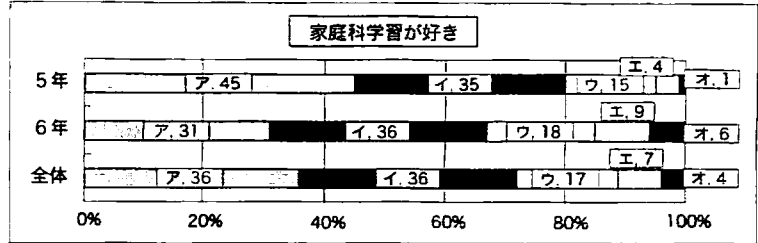
- ・ 児童の実態に応じた、2年間を見通した年間指導計画を作成する。
- ・ 調理実習や、布を使っての製作活動の際は、指導内容、時間、方法等を見直し、基礎的な技能の定着が一層図れるように、指導法を改善する。
- ・ 学習したことが日常生活や家庭生活の中で生かせるように家庭との連携を図り、協力を得ながら学習を進めていくことが重要である。

I 第5・6学年児童の家庭科学習に関する調査

設問1

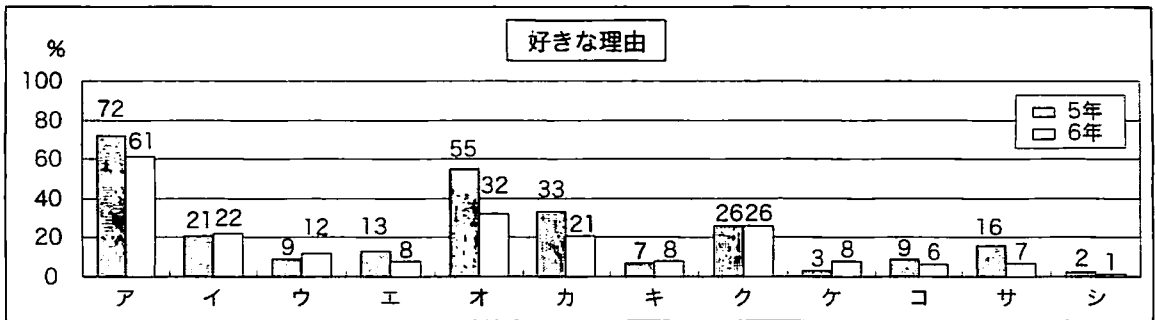
(1) あなたは、家庭科の学習が好きですか。

- ア とても好き
- イ わりと好き
- ウ どちらとも言えない
- エ あまり好きではない
- オ 好きでない



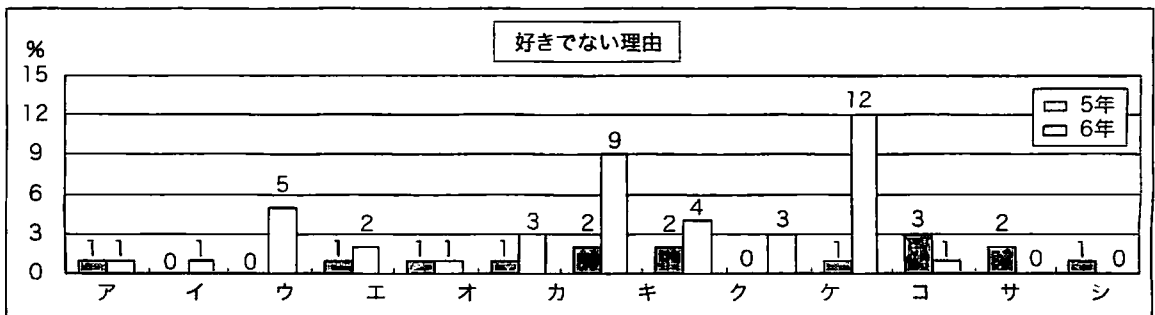
(2) (1)で「ア」「イ」と答えた人にたずねます。それはなぜですか。【4つ以内】

- ア 調理することが楽しい
- イ 調理の仕方が学べる
- ウ 食事の仕方が学べる
- エ 掃除や整理整頓の仕方が学べる
- オ 布を使って物を作ることが楽しい
- カ 自分で製作したのものが使える
- キ 物やお金の使い方が学べる
- ク 家庭生活に役立つ
- ケ 家庭生活の仕方について学べる
- コ 家族のことを考えられる
- サ 家族への協力の仕方が学べる
- シ その他



(3) (1)で「エ」「オ」と答えた人にたずねます。それはなぜですか。【4つ以内】

- ア 包丁を使って切るのがこわい
- イ ガスコンロを使うのがこわい
- ウ 針を使って縫うのがこわい
- エ ミシンの使い方が分からない (使えない)
- オ 包丁で切ったり、皮をむいたりするのがむずかしい (できない)
- カ ガスコンロでゆでたり、いためたりするのがむずかしい (できない)
- キ 調理したり製作したりするのがにがて
- ク 調理や製作は面倒くさい
- ケ 家庭科の学習は役に立たない
- コ 学習の内容がよく分からない
- サ 学習が楽しくない
- シ 調理や製作の時間が少ない
- ス その他

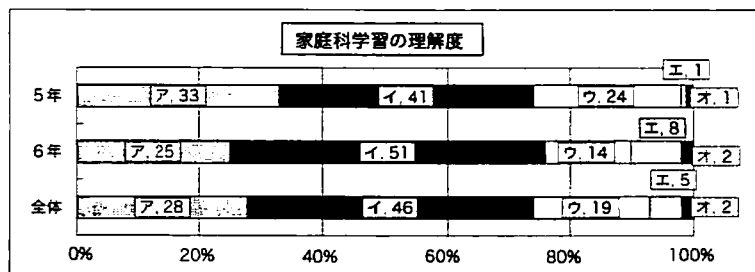


【考察】

- ・家庭科の学習が「とても好き」、「わりと好き」と答えた児童が5年生で80%、6年生で67%となっており、5年生の方が家庭科の学習を好む傾向が高い。このことから、5年生は体験的な活動が多い家庭科の学習に魅力を感じているが、それが6年生になると持続しない児童が出てくること分かる。
- ・家庭科の好きな理由としては、5年生も6年生も、「調理が楽しい」が一番多く、次に「布を使って作るのが楽しい」となっている。その次が5年生では「自分で製作した物が使える」、6年生では「家庭生活に役立つ」になっている。家庭科の魅力は調理や製作などの体験的な学習であることが分かる。
- ・嫌いな理由として、5年生は「学習に楽しさを感じない」ことや「調理製作が苦手・面倒くさい」ということをあげている。しかし、ごく少数である。6年生になると「楽しくない」という児童、「面倒くさい」と感じる児童よりも、「分からない」、「苦手である」と感じている児童がぐっと増えている。学習していく過程でうまくいかない経験をする、意欲も失われてしまうことが考えられる。苦手な児童にも達成感をもたせられるような指導の工夫をしていくことも必要である。

設問2 あなたは、家庭科の学習がどのくらい分かりますか（できますか）。

- ア よく分かる
- イ だいたい分かる
- ウ 半分くらい分かる
- エ 分からないことが多い
- オ ほとんど分からない



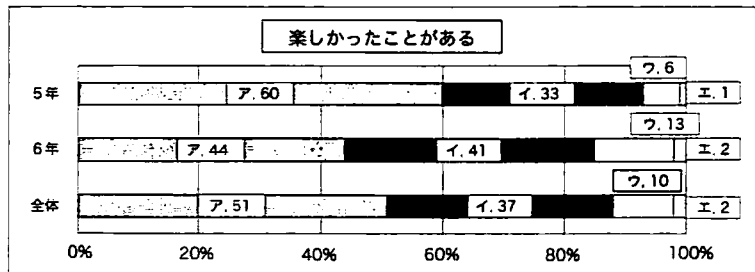
【考察】

- ・家庭科の学習が「分かる」「だいたい分かる」と答えたのが、5年生は74%、6年生は76%とほぼ同じである。学習が分かることと家庭科の好き嫌いにはあまり関係がないことが分かる。

設問3

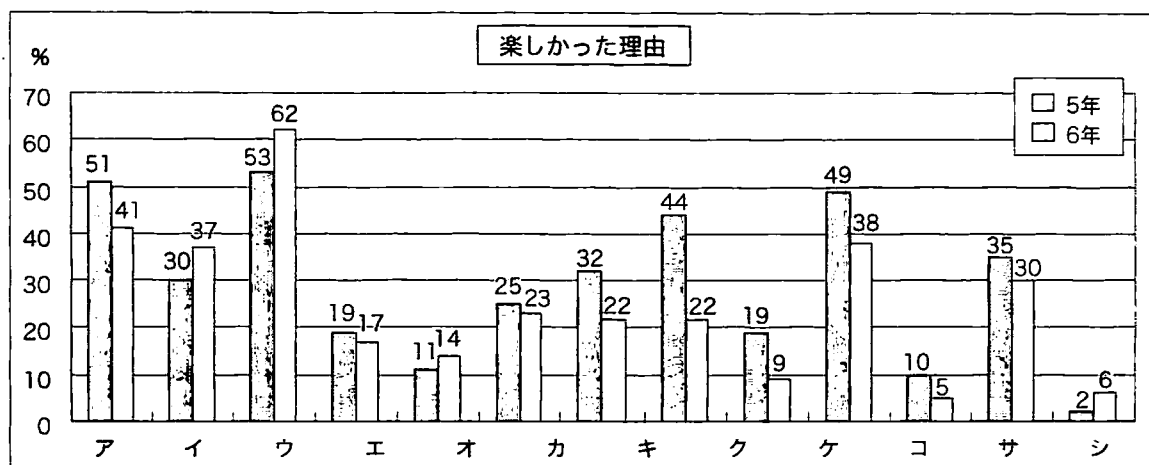
(1) あなたは家庭科の学習で、「楽しかった」と思うことがありますか。

- ア よくある
- イ ときどきある
- ウ あまりない
- エ 全くない



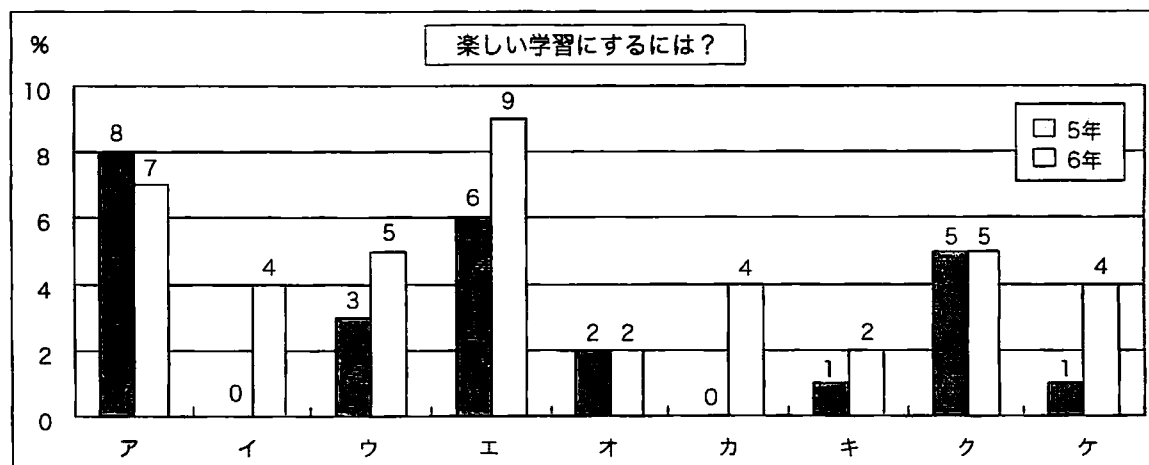
(2) (1)で「ア」、「イ」と答えた人にたずねます。それはどんなときですか。【5つ以内】

- ア 課題が達成できた
- イ 計画通り学習できた
- ウ グループで学習できた
- エ 友達や先生に認められた
- オ みんなの手本になった
- カ 工夫しながら進めた
- キ 新しいことが分かった
- ク できなかったことができた
- ケ 友達に教えてもらった
- コ 夢中になって活動できた
- サ 先生に丁寧に教えてもらった
- シ なるほどと思うことがあった
- ス その他



(3) (1)で「ウ」「エ」と答えた人にたずねます。どのようにすると楽しい学習になるとおもいますか。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ア 分かりやすく丁寧に教えてほしい | イ 参考になる資料を用意する |
| ウ 私たちの考えを取り上げる | エ 調理や製作の時間を長くする |
| オ 調理や製作の時間を多くする | カ 学習に必要な用具を増やす |
| キ 一人一人が学習する時間を多くする | ク グループで活動する時間を多くする |
| ケ その他 | |

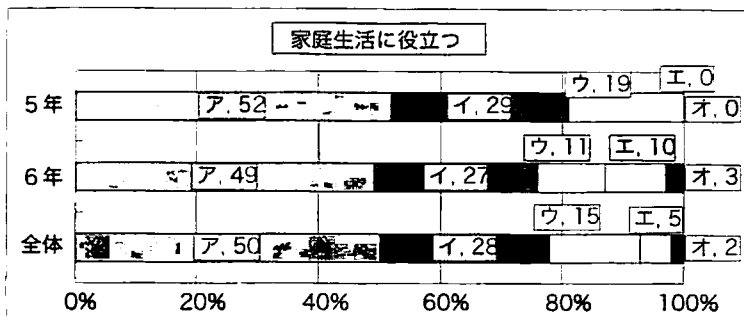


【考察】

- 家庭科の学習で「楽しかった」と感じるものが「よくある」が5年生60%、6年生44%、「ときどきある」が5年生33%、6年生41%である。5年生の方が楽しかったと感じる児童が多く、楽しく学習していることが分かる。
- どんな時が楽しいかについては、5年生も6年生も「グループで協力できた」を一番にあげており、協力して活動することに楽しさを感じている児童が多いことが分かる。次が「課題の達成」で、達成感が楽しさにつながっていることが分かる。3番目が、「夢中になって活動できた」となっている。楽しさについては5年生も6年生も同じように感じている。「できなかったことができるようになった」は5年生19%に対し、6年生9%と大きな差があり、5年生の方が6年生の2倍達成感や楽しさを感じていることが分かった。
- どうすれば楽しくなるかについては、5年生・6年生とも、「分かりやすく丁寧に教えてほしい」「調理や製作の時間を長くしてほしい」「グループで活動する時間を多くしてほしい」が多かった。5年生にはみられなかったが、6年生には、「学習に必要な用具を増やしてほしい」という希望もあった。快適に実習できる環境の整備も学習意欲に影響すると考えられる。

設問4 家庭科の学習は、家庭生活で役に立つ（役立っている）と思いますか。

- ア とても役に立つ
 イ わりと役に立つ
 ウ 少し役に立つ
 エ あまり役に立たない
 オ まったく役に立たない

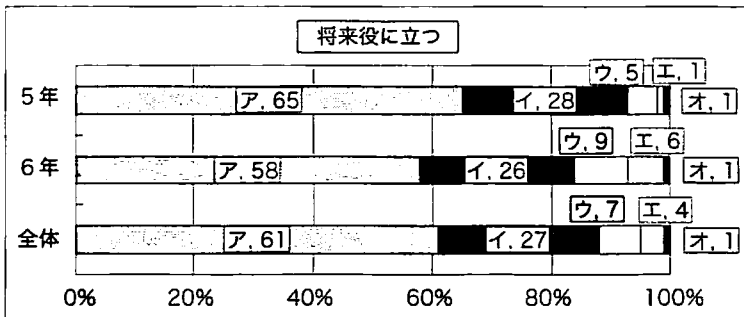


【考察】

・家庭科の学習が家庭生活で役立っていると思うかについては、「とても役立つ」、「わりと役立つ」が5年生では81%であるが、6年生では76%と減少している。5年生の方が、家庭科の学習に対して期待が大きいことが分かる。

設問5 家庭科の学習は、将来（大人になったとき）役に立つと思いますか。

- ア とても役に立つ
 イ わりと役に立つ
 ウ 少し役に立つ
 エ あまり役に立たない
 オ まったく役に立たない



【考察】

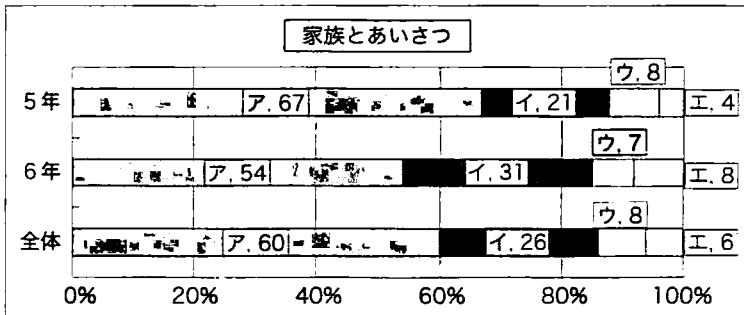
・家庭科の学習が将来役に立つと思うかについては、「とても役立つ」、「わりと役立つ」が、5年生で93%、6年生で84%と、家庭科の学習が将来役に立つと思っている児童が多いことが分かる。

II 第5・6学年児童の家庭生活に関する調査

設問6 あなたのふだんの家庭生活についてお答えください。

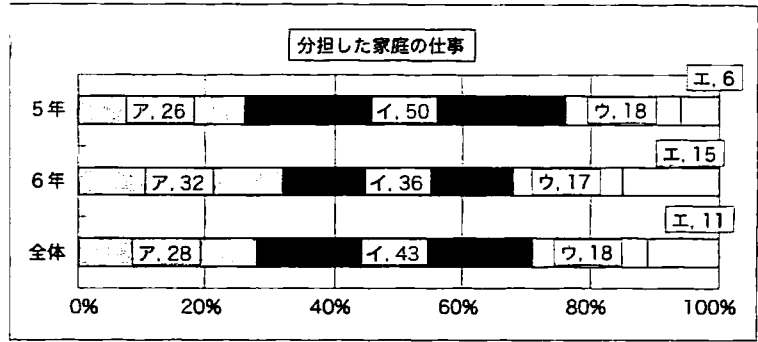
(1) 朝起きたとき、家族と「おはようございます（おはよう）」のあいさつをしていますか。

- ア いつもしている
 イ ときどきしている
 ウ あまりしていない
 エ していない



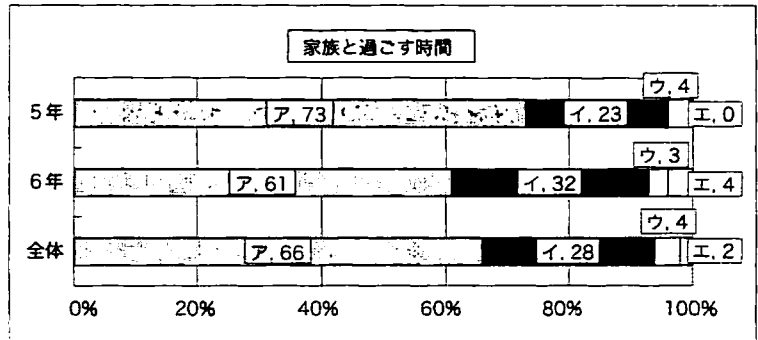
(2) 手伝いではなく、分担した家庭の仕事をしていますか。

ア いつもしている
イ ときどきしている
ウ あまりしていない
エ していない



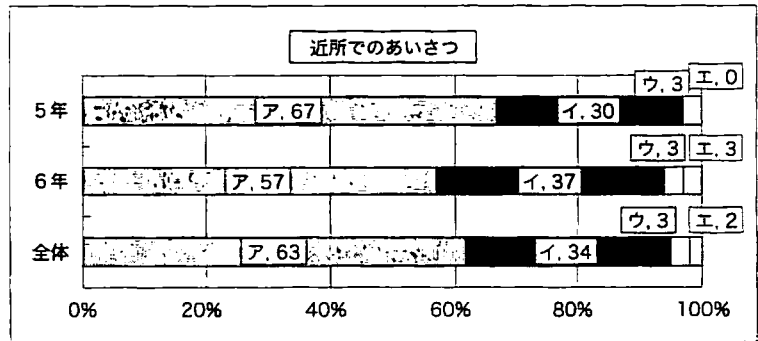
(3) 家族と話すなど、一緒に過ごす時間がありますか。

ア 毎日のようにある
イ ときどきある
ウ ないことが多い
エ ほとんどない



(4) とんだり近所の人に会ったとき、あいさつをしていますか。

ア いつもしている
イ ときどきしている
ウ あまりしていない
エ していない



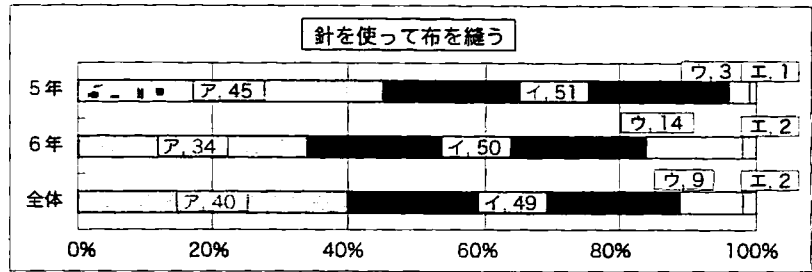
【考察】

- ・朝の家族へのあいさつは「いつもしている」児童が5年生で67%、6年生で54%である。家族のあいさつはとても大切である。しないという児童は少ないが、いつもできるようになることが望ましい。
- ・分担している家庭での仕事を「いつもしている」、「ときどきしている」児童は5年生で76%、6年生で68%である。学年が上がるにつれて習い事など忙しくなると考えられるが、7割から8割の児童が仕事を分担しているのはよい傾向である。家族の一員として働くことの意義や自分でできることを考えさせる場、互いに情報交換をする場を設け、家庭との連携を密にしながら、自分の役割として仕事ができる児童を更に増やしたい。
- ・家族と話すなど一緒に過ごす時間については、5年生は73%、6年生は61%が「毎日のようにある」というよい結果となっている。5年生では「ほとんどない」が0%であるが、6年生には4%おり、家庭での生活が心配される児童もみられる。
- ・隣や近所の人へのあいさつは、5・6年とも90%以上であることから、大変よくできている。

設問7 あなたは、次のことがどのくらいできますか

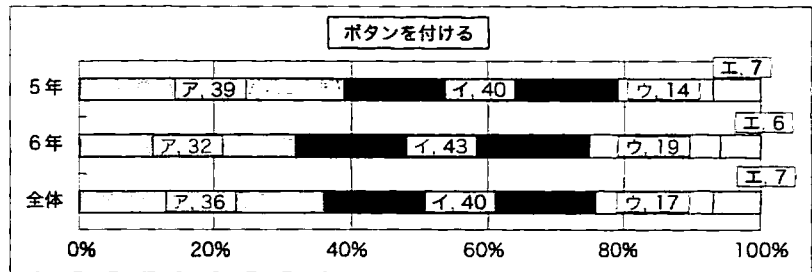
(1) 針を使って布を縫い合わせる。

ア よくできる
イ だいたいできる
ウ あまりできない
エ できない



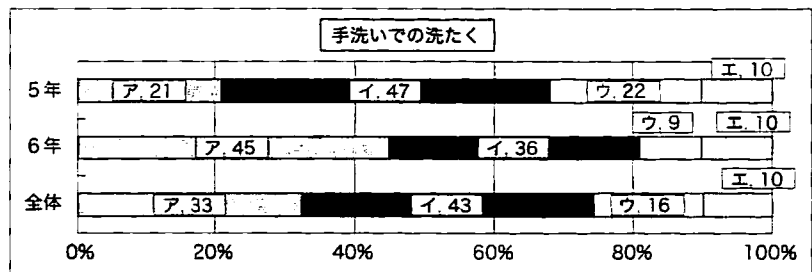
(2) ボタンを付ける。

ア よくできる
イ だいたいできる
ウ あまりできない
エ できない



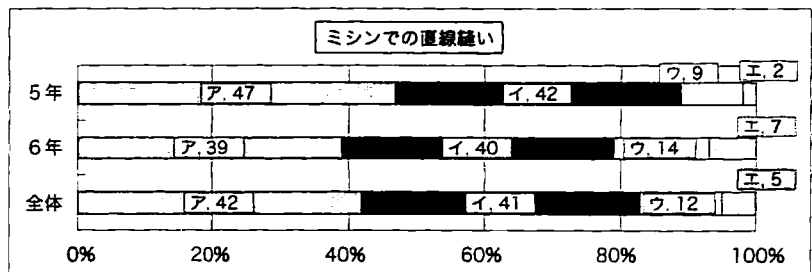
(3) くつ下や体育着などを手洗いで洗たくできる。

ア よくできる
イ だいたいできる
ウ あまりできない
エ できない



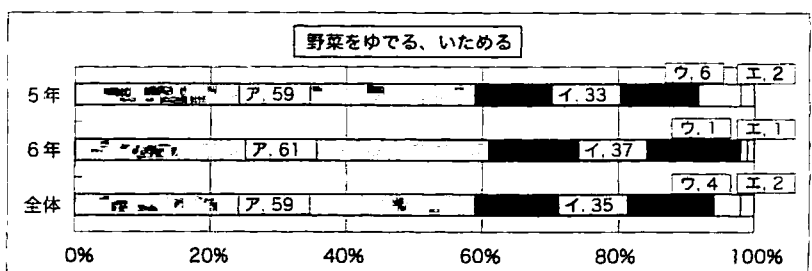
(4) ミシンを使って直線縫いをする。

ア よくできる
イ だいたいできる
ウ あまりできない
エ できない



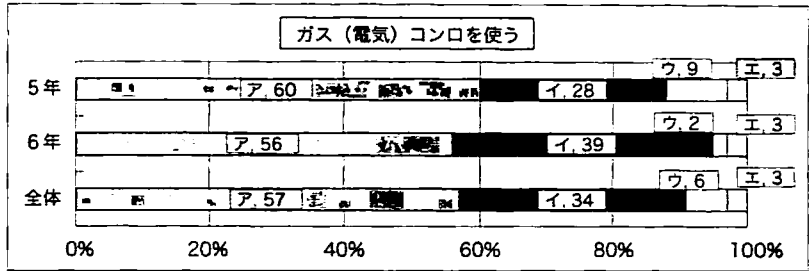
(5) 野菜をゆでたり、いためたりする。

ア よくできる
イ だいたいできる
ウ あまりできない
エ できない



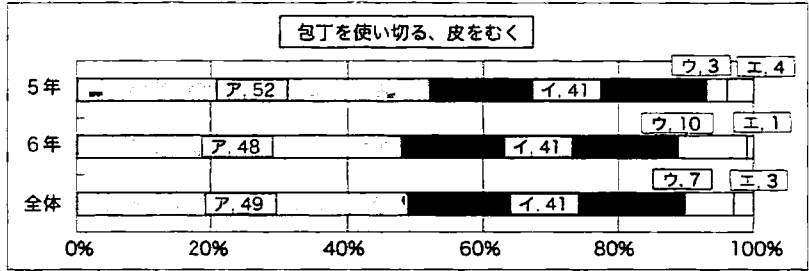
(6) ガス（電気）コンロを安全に使う。

ア よくできる
 イ だいたいできる
 ウ あまりできない
 エ できない



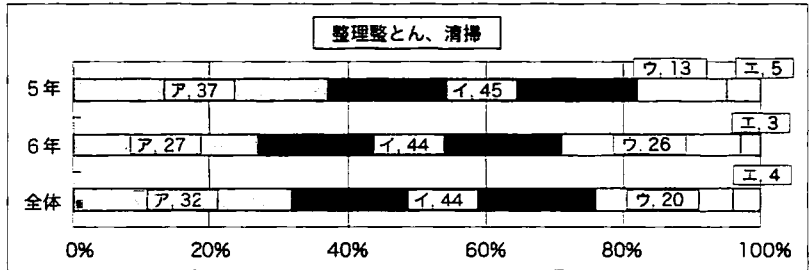
(7) 包丁を使って、切ったり、皮をむいたりする。

ア よくできる
 イ だいたいできる
 ウ あまりできない
 エ できない



(8) 身の回りの整理・整とんや清掃をする。

ア よくできる
 イ だいたいできる
 ウ あまりできない
 エ できない



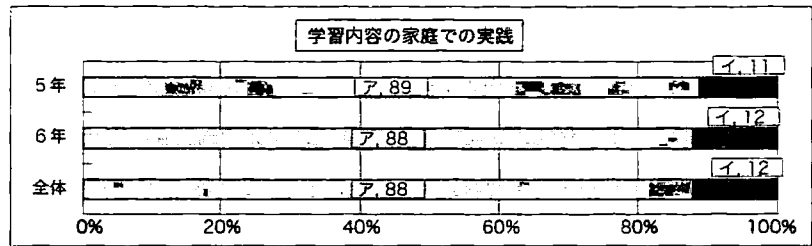
【考察】

- ・針で布を縫い合わせるが、「よくできる」、「だいたいできる」5年生が96%、6年生が84%で、ほとんどの児童ができるようになっている。
- ・ボタンを付けるは、「よくできる」、「だいたいできる」5年生が79%、6年生が75%である。ボタン付けは、身近で大切な技能なので100%をめざしたい。
- ・手洗いで洗たくは、「よくできる」、「だいたいできる」5年生が68%、6年生が81%で、6年生はできる児童が多い。実習の成果であると考えられる。
- ・ミシンでの直線縫いは、「よくできる」、「だいたいできる」5年生が89%、6年生が79%である。年に何回もやることではないので忘れてしまうのかもしれないが、繰り返し実習を行いしっかり身に付けさせたい。
- ・野菜をゆでたり炒めたりする調理は「よくできる」、「だいたいできる」5年生が92%、6年生が98%で、よく身に付いているといえる。
- ・ガスコンロを安全に使うは、「よくできる」、「だいたいできる」5年生が88%、6年生が95%と、6年生ではほぼできるようになっている。
- ・包丁を使う技能は、「よくできる」、「だいたいできる」5年生が93%、6年生が89%で、できる児童が多い。
- ・身の回りの整理整とんや清掃は、「よくできる」、「だいたいできる」が5年生が82%、6年生が71%である。大切さは分かっているけれど、実際の日常生活ではできていないという児童もいるであろう。全体的に学習した基礎的な技能は身に付いていると言える。

設問8

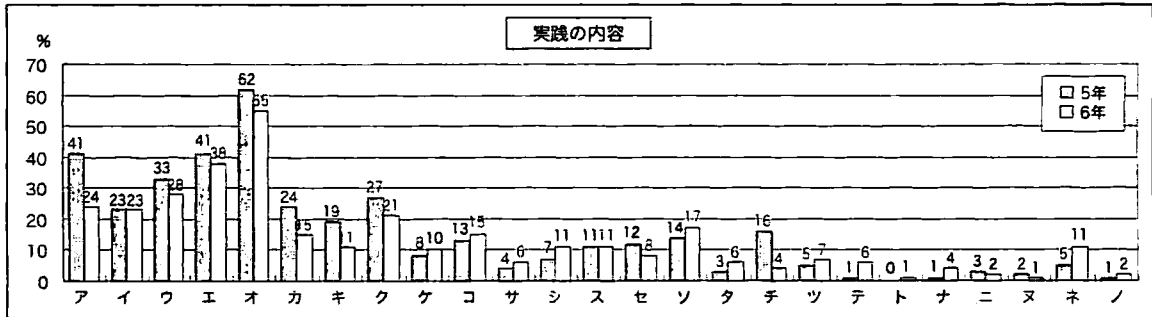
(1) あなたは、家庭科で学習した内容を家庭で実践したことがありますか。

ア ある
イ ない



(2) (1)で、「ある」と答えた人にたずねます。それはどんなことですか。【5つ以内】

ア お茶入れ イ お湯わかし ウ 果物の皮むき エ 食器洗い オ 料理作り
 カ 調理用具洗い キ 布で生活に役立つもの作り ク アイロンがけ
 ケ ミシン縫い コ ボタン付け サ 衣服の着かた シ 手洗いで洗たく
 ス 洗たく機での洗たく セ 整理・整とん ソ 清掃 タ 買い物
 チ 近所の人へのあいさつ ツ 家族とのだんらん テ 家庭生活をもっとよくする工夫
 ト 家庭生活上で自分の役割を果たす工夫 ナ 涼しく、暖かく住む工夫
 ニ 明るさの取り入れ（採光と照明）の工夫 ヌ 迷惑をかけないで住む工夫
 ネ お金の使い方 ノ その他

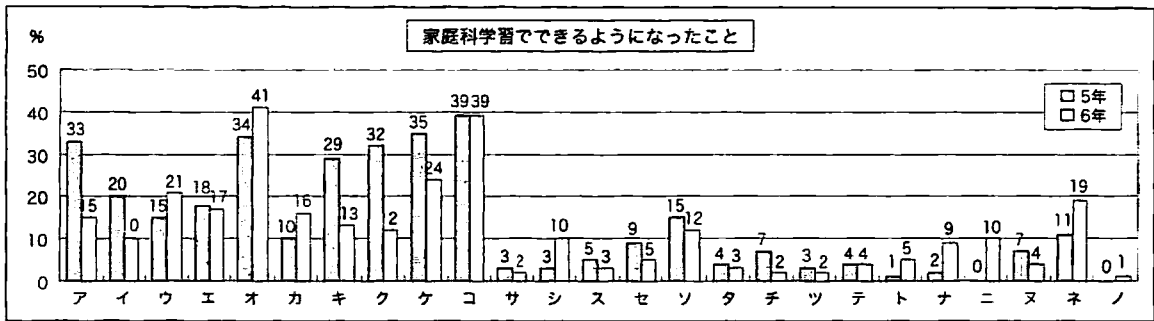


【考察】

・家庭科で学習したことを家庭でも実践したことがある児童は、5年生89%、6年生88%である。習熟の場として家庭でも実践をしていくことは望ましいことである。実践した内容については、5年生が、多い順に、料理、お茶入れ、食器洗い、果物の皮むきと台所での作業となっている。6年生でも、料理、食器洗い、果物の皮むき、お茶入れとやはり台所での作業の順に多い。食については、毎日のことなので、実践する機会が多くなっている。

設問9 家庭科を学習して、あなたができるようになったのは何ですか。【5つ以内】

ア お茶入れ イ お湯わかし ウ 果物の皮むき エ 食器洗い オ 料理作り
 カ 調理用具洗い キ 布で生活に役立つもの作り ク アイロンがけ
 ケ ミシン縫い コ ボタン付け サ 衣服の着かた シ 手洗いで洗たく
 ス 洗たく機での洗たく セ 整理・整とん ソ 清掃 タ 買い物
 チ 近所の人へのあいさつ ツ 家族とのだんらん テ 家庭生活をもっとよくする工夫
 ト 家庭生活上で自分の役割を果たす工夫 ナ 涼しく、暖かく住む工夫
 ニ 明るさの取り入れ（採光と照明）の工夫 ヌ 迷惑をかけないで住む工夫
 ネ お金の使い方 ノ その他

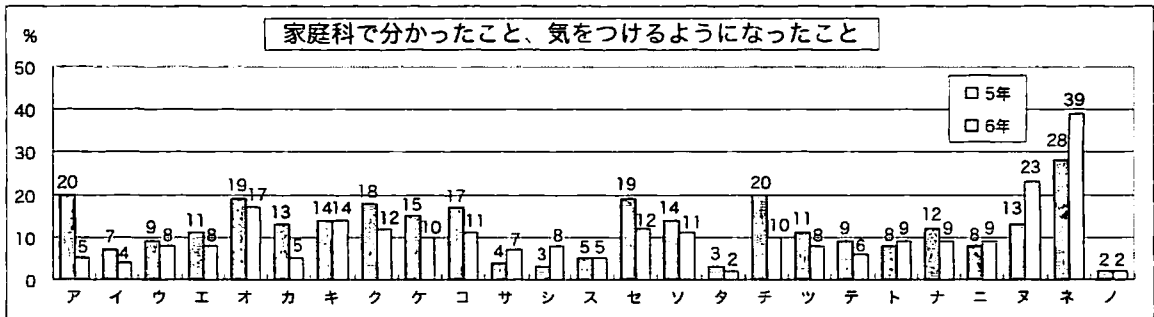


【考察】

・家庭科の学習でできるようになったことについては、5年生はお茶入れ、お湯わかし、料理、布製作、アイロンがけ、ミシン縫い、ボタン付けと、調理関係や衣服の製作関係が多い。6年生は、果物の皮むき、料理、ミシン縫い、ボタン付け、お金の使い方が多い。体験的な活動を通して学んだことは、できることとして身に付いていることが分かる。

設問10 家庭科を学習して、あなたが分かったことや気を付けるようになったことは何ですか。【5つ以内】

- ア お茶入れ イ お湯わかし ウ 果物の皮むき エ 食器洗い オ 料理作り
 カ 調理用具洗い キ 布で生活に役立つもの作り ク アイロンがけ
 ケ ミシン縫い コ ボタン付け サ 衣服の着かた シ 手洗いでの洗たく
 ス 洗たく機での洗たく セ 整理・整とん ソ 清掃 タ 買い物
 チ 近所の人へのあいさつ ツ 家族とのだんらん テ 家庭生活をもっとよくする工夫
 ト 家庭生活上で自分の役割を果たす工夫 ナ 涼しく、暖かく住む工夫
 ニ 明るさの取り入れ（採光と照明）の工夫 ヌ 迷惑をかけないで住む工夫
 ネ お金の使い方 ノ その他



【考察】

・家庭科を学習して、分かったことや気を付けるようになったことは、5年生でも6年生でもお金の使い方が多い。これは実技をするわけではないが、学んだことをしっかりと実感できているものと考えられる。5年生では、その他お茶入れや近所の人へのあいさつ、整理整とん、アイロンがけも多い。6年生では、迷惑をかけないで住む工夫や調理用具洗いと、視野が広がっていることが分かる。